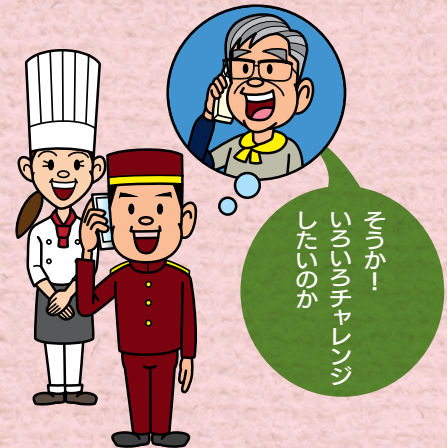


法人化して親族(子)に継承

継承前の状況

- *現経営者である**父親(60歳)**は、親の後を継ぎ、畜産経営(酪農)に取り組んできた。
- *ホテル業界に就職していた**息子(28歳)**とその妻が父親の経営する農場で就農することになったときに、父親が継承を意識。



継承プロセス

①準備段階

- ◎現経営者(父親)と息子夫婦が話し合い、**経営理念を息子夫婦と共有**。経営理念を踏まえて、中長期の事業計画を検討したところ、息子夫婦の意向により将来的にはジェラート等の加工部門の導入を予定。
- ◎**加工部門の導入**と、それに向けた**従業員の確保**を視野に**法人化を決定**。
- ◎継承する資産について、**目に見えない資産**(飼養管理のノウハウなど)の洗い出しを重点的に実施。

②経営継承計画の策定

- ◎**目に見えない資産が予想していたよりも多かった**ため、3年後に考えていた**経営継承を6年後に変更**して、経営継承計画を策定。

1~3年目:飼養管理を習得
4~5年目:経営管理のノウハウを習得
6年目:法人化し、息子が代表に就任。
父親、母親、息子の妻は役員に就任。

活用できる支援策

<食料産業・6次産業化交付金>

六次産業化・地産地消法又は農工商等連携促進法の認定を受けた農林漁業者等であれば、事業制度資金等の融資を活用して加工・直売施設を整備した場合一定額が交付されます。

詳細はコチラへ→



③経営継承の実行

- ◎経営継承計画どおりに6年後に法人化し、息子が代表取締役社長に就任。
- ◎施設、機械、乳牛等の**資産は、すべて現経営者から法人へ売却し、継承を完了**。

- ★継承後はこれまでのホテル業界での人脈等を活かし、**酪農体験事業を新規に実施**。ジェラート事業の導入に向け、息子の妻が外部企業で研修を受講した。
- ★父親は、息子が代表を務める法人の役員(会長)として相談を受けつつ、経営をサポート。

